

1. 評価結果概要表

作成日平成20年11月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	4270201744
法人名	社会福祉法人 幼老育成会
事業所名	グループホーム サクラ
所在地	〒857-0028 長崎県佐世保市八幡町1-2 (電話)0956-24-3710

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年10月21日	評価確定日	平成20年11月25日

【情報提供票より】(平成20年 9月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成12年 3月 1日(平成15年8月1日別棟増設)		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤	14 人, 非常勤 10人, 常勤換算 6.91人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨	鉄筋コンクリート	造り
	平屋	3階建ての	1階 ~ 3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	実費/光熱費1ヶ月10,000円	
敷金	(有) 100,000 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	250 円
	夕食	420 円	おやつ	80 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4)利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性	4 名	女性	23 名
要介護1	7 名	要介護2	9 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	70 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	千住病院 ・ 初瀬歯科医院
---------	---------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

佐世保市街地に程近い高台を切り開き、社会福祉法人「幼老育成会」の諸施設が創設された。保育園、デイサービス施設、介護老人保健施設、特別養護老人ホームなどの施設が立ち並ぶ中に当ホームはある。この環境である為、介護、医療など様々な面での協力体制がとられ、情報交換や職員同士の交流と連携に期待でき、更に入居者にとっての選択の幅が広いという安心が得られている。職員は自己研鑽において意欲的であり、理念に加え更にユニット毎のスローガンを掲げて真摯に取り組まれるなど、ホームにおいてサービスの質の向上に繋げていきたいという意識が高い。今後は地域への発信を広げていかれ、地域との関わりの中で新たな取り組みをされていかれることに期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善計画シートを作成し、改善に向けて計画、その評価と着実に取り組まれている。ことに、同業者との交流においては意欲的に取り組み、希望した他施設への訪問交流は、職員にとって得るものが多く有意義な機会となっている。日常的な外出も入居者個々の希望に添い、状況に応じた支援に努め、家族の支援も仰ぎながら外出の機会を増やしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員で取り組み、日々の支援を省みて、職員間での支援への再確認や見直しができるよい機会と捉えている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回、家族代表、民生委員、他施設管理者、中央地域包括支援センター職員、ホーム職員を構成メンバーとして開催し、ホームのモニター役として協力いただいている。グループホームを周知理解していただくことを目的とした時期が経過し、今後は地域との関わりを深めるべく、会議メンバーも年代の幅を広げ様々な意見をいただき、検討していきたいとしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>年に1回、家族会の交流の場として昼食会を開催し、その際に家族アンケートに協力いただき意見聴取の機会としている。日常の家族の訪問時においても意見を伺いやすい関係作りに努めている。意見箱の設置や重要事項説明書において苦情相談窓口を明示している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>当ホームは併設施設に囲まれた高台にあり、下へ降りると以前からの住宅地もあるがホーム周辺は若い人が多い新興住宅、集合住宅である。入居者ごと近所付き合い的な地域との関わりは難しいが、6月には市民大清掃にも参加し、老人保健施設と合同開催する秋祭りといった行事を地域との交流の機会とし積極的に取り組んでいる。地域の小中学校との交流も、それぞれ年に数回受け入れている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念「明るく」は明るく、「強く」は入居者・職員の弱い部分をサポートして、「正しく」はそのままの自然体での意味合いを込めている。ホーム理念は「あったか家族」としている。年度始めに、各ユニット毎に職員全員で話し合い1年間のユニットスローガンを掲げ、ゆとりと関わりを大切に、入居者、職員のその人らしさを活かしたいなどといったユニットの個性と職員の年間目標が込められている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニットスローガンは半期に1度の勉強会(9月)で、評価、反省し後半の指針にしている。年度始めにスローガンと別に職員一人ずつの目標も掲げており、目標に対する確認、評価は職員個々で行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当ホームは併設施設に囲まれた高台にあり、下へ降りると古くからの住宅もあるが周辺は新興住宅、集合住宅である。入居者とご近所付き合い合い的な地域との関わりは難しいが、6月には市民大清掃に参加し、老健施設と合同開催する秋祭りといった行事を地域との交流の機会として積極的に取り組んでいる。地域の小中学校との交流も、それぞれ年に数回受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年度始めの4月から各ユニットで意識的に自己啓発に繋がる評価の取り組みをしている。評価に取り組むことで忘れがちになっていたことへの気づきや、スタッフ間での考えの再確認などを業務以外でじっくり話し合ういい機会としている。改善計画シートを活用しての改善への取り組みと共に自己、外部評価の意義に対する理解を深く持たれている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、家族代表、他施設管理者、民生委員、地域中央包括支援センター職員、ホーム職員を構成メンバーとして開催している。グループホームを周知理解していただくことを目的とした時期を経過し、今後は地域との関わり(母子を対象に幼老統合ケアなど)を会議において探るべく、会議メンバーも年代の幅も広げ様々な意見をいただき検討していきたいとしている。		

グループホーム サクラ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症介護実践研修、研修に関わる実習生の受け入れ、介護相談員制度「虹の会」の受け入れがなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	4ヶ月に1回ホーム便りにて、行事予定や活動報告、入居者紹介などを伝えている。個別には面会時に近況、金銭管理報告を行い、県外に在住している家族にも必要時には電話にて伝えている。また、家族会開催時を見ていただくために、ホームでの何気ない日常の様子をビデオ撮影している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回昼食を兼ねた家族会を開催している。会では職員が入居者に教えていただいた踊りを披露し、家族が演芸で参加されたり、日常生活のビデオ上映や入居者が点茶でもてなすなど、和気あいあいとした時間を過ごしている。またその際に、家族にケアプランの説明をおこない、アンケートにも協力いただき、「今までどおりに、ゆったり毎日過ごしてもらいたい」などの回答があった。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年1回4月に法人内、ユニット間での職員の異動がある。法人内合同行事において顔を合わせることもあり、他施設から新任の場合は何日間か業務に入ってもらい職員間の連携と入居者と馴染む引継ぎ期間を設けている。ユニット異動では、週に1回3ユニットが集まる機会があり行き来をしながら馴染んでいただいている。入居者へのダメージを防ぎ統一した支援に配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は月に1回勉強会を開催し、外部研修へも参加、資格取得に関しても奨励、支援されている。職員の向学心を支援しサービスの質の向上に反映させる取り組みがなされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	改善計画において最優先課題として積極的に取り組み、他施設の訪問は、行ってみたいグループホームを挙げ、広く他県に及ぶ4箇所ホームに4～5人のグループで体験交流を行った。自他のホームを比較し気づきや反省は多く、刺激になったという職員の感想もあり、レポートとして記録もなされた。今後も職員の希望もあり、サービスに反映させるよう継続の予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>法人内施設からの移行の場合は、施設間のスタッフとの連携もしやすくスムーズな利用へと繋げている。面接、見学を重ねながら本人、家族が納得されるサービス利用へ配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>調査訪問時に聞かせていただいた中で『介護は学びが多く、成長を多くさせていただける』の言葉があった。自己研鑽、サービスの質の向上のための研修といった機会のみならず、日々の支援の中で学ぶ機会があるとの示唆があり、対応に関して常に疑問や悩みを持ち入居者と共に歩む姿勢が窺えた。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員間の情報の共有と統一したケアにあたるため、フェイスシートを整備している。入居者の思い、意向に関して細かな気づきを職員間で伝達できるよう、各ユニット毎に申し送りノート、気づきノートを活用している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアカンファレンス会議において、本人、家族の意向、要望に考慮し、職員間で気づきをあげ意見交換をおこない、ケアプランの作成をしている。介護計画書は家族へ説明し、同意の署名、押印をいただいている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しの期間は、3ヶ月毎としているが、状態変化に対しては柔軟に対応している。職員の細かな気づきをノートに記録し、毎日のミーティング時に申し送りとして口頭で伝えられ、会議時にプランに反映されている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の老人保健施設から看護師の応援を仰ぐことが容易であり、医療面での連携が本人・家族の安心に繋がる。また、状態変化に伴いグループホームからの移行を検討する時、馴染みの関係の継続支援や極端な環境の変化の回避、本人・家族の要望などに沿った法人内施設の紹介・提供支援でスムーズな移行へ繋げることができる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの他科受診は基本的に家族に対応していただいている。協力医療機関との連携においては、週2回訪問する看護師とは看護訪問メモ帳の記録で情報共有を図り、医師とは、口頭又はファックスで情報提供する体制も整えている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算を取られており、看取りの指針をはじめ、家族との話し合いの体制がとられている。医療と介護双方の連携・対応についてと、本人・家族との状況の変化に応じての話し合いに加え、例えば自宅、病院への移送手段の検討など今後更に支援方法において深めていく方向である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物の管理、書類の処理(シュレッダー処理)など慎重な取り扱いをされている。入居者への言葉かけにも配慮されている。状況に応じて職員間では小さな声で特定者名を避けて居室番号で伝達したり、排泄に関する言葉に気をつけたりと、職員のチームワークと統一したケアで入居者のプライバシーが保護されるように努められている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今年のユニットスローガンの一つに挙げられているように「あなたらしさ」を大切に日々の支援に努められている。特に誕生日には「あなたが主役の日」ということで、入居者の希望や意向を聞きいれて職員が同行し、希望に沿って気ままにショッピングをしたり、生活歴に着目して遊覧船に乗り家族も共に楽しんでいただくなどの支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る入居者には食事の準備、後片付けにも入っていただき、職員も共にする食卓で会話と共に和やかに食事を楽しんでいる。調査訪問時に、入居者の家族(御主人)が食事時に訪問され、職員がさりげなく席を譲ったあと自然に食事介助を続けられていた。入居者、家族、ホームの信頼関係もうかがえる心温まる印象であった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴となっているが、入居者の状況に応じてシャワー、部分浴の対応がなされ、必要に応じた毎日の足浴で清潔保持への支援がなされている。入浴を拒まれる場合は声掛けをする職員が代わってみたり、きっかけを伺うための工夫、試行をしながら気持ちよく入浴していただくようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴、経験の把握のもと、出来る力を活かす支援として、食事の後片付け、カレンダーの日付交換、ペットの世話などに携わっていただいている。趣味のちぎり絵や小物作りで針仕事を楽しめたり、「歌声喫茶」と称して手作りのおやつを持ち寄り歌に興じるのも楽しみごとの一つである。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	昨年の評価より改善計画に挙げて積極的に支援に取り組まれている。日常の散歩の他、初詣や彼岸のお寺参り、買い物、美容院、マッサージなど家族の支援も受けながら、それぞれの希望に沿った支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向のある入居者への安全配慮と飼っているペットが外に出るのを防ぐため、常時ではないが玄関のドアの施錠をしている。現在までに見守りが可能な時は開錠する試みもされており、その結果外出される入居者の行動パターンの把握が出来ている。		安全の為に取られている策ではあるが、入居者・来訪者が施錠されている玄関において受ける印象に配慮されたい。玄関前の駐車場における安全警告対策を十分にとられた上で見守りをもって、施錠しない取り組みに期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署指導のもと、火災避難訓練を実施している。改善計画に挙げていた持ち出し品リストは準備しており、災害時は母体施設を避難場所として連携を図ることとしている。		年2回の訓練のみでは、災害時における対応、手順に関しての職員の認識は心もとないことは否めない。訓練内容も考慮しながら自主訓練の機会を設けることで確認、周知徹底をはかる取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取についてはチェック表において管理され、ユニット毎に医療連携体制のもと栄養バランスのとれた食事が提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭があるため自然の採光もあり暖かな明るさに満ちた居間兼食堂である。入居者の作品が飾られ季節感のあるしつらえもなされ、家庭的な落ち着いた調度品が置かれている。二つのユニットではそれぞれの居間で犬やインコが飼われており、ソファで共に寛ぐ入居者と犬の様子に穏やかな癒しの表情が窺えた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット毎に多少の違いはあるものの、居室はゆとりある広さで洗面台も備え付けである。壁紙や一部窓は障子を使うなど明るさの中にも和の雰囲気を取り入れた室内は、使い慣れた家具、趣味に関するもの、好みの調度品、家族の写真や飾られた花など『その人らしさ』をもった部屋作りへの支援がなされている。		